

日本の食の変遷とスローフード運動の可能性について

【目次】

序章		第4章 日本におけるスローフード運動について 事例を中心として
第1章 はじめに		第1節 学校給食における味覚教育
第1節 スローフードの誕生と発展		第2節 スローフード協会の活動
第2節 スローフード協会の組織構成		第3節 農業団体によるスローフード運動
第3節 スローフード協会の主な活動		第4節 商工会議所によるスローフード運動
第4節 スローフード運動の年表		第5章 スローフード運動の可能性について
第5節 スローフード運動の基本指針		第1節 東京でのスローフードの広がり
第2章 現代の日本人の食意識について データを参照にして		第2節 スローフード運動の国際的な広がり
第1節 消費環境の変化		第3節 スローフードのファーストフード化
第2節 食をめぐる情報の認知度		第4節 日本でのスローフード運動の課題
第3節 地元農産物に関する消費者意識調査		終章
第4節 消費者が求めるこれからの食		参考文献
第3章 スローフードでの地域活性化		
第1節 スローフードによる地域活性化とは		
第2節 スローフードによる地域活性化の目的		

【研究の目的・課題】

現代の私達の食生活は多様化してきていて、多くの場面で食に触れることができると思われる。多くの食があふれる社会だからこそ食を自らが理解し、TPOにあわせた選択をすることが必要とされる。ファーストフードなどの食材の単一化、大量生産、低価格、スピーディーな食事環境も現代には必要不可欠な食事かもしれないが、もう一度、食の地域伝統やモラルといったものを見直して行きたいと考えた。そしてスローフードの可能性、存在価値を検討していきたい。

【方法】

関連文献、インターネットなどから情報を収集し、文献調査を中心にまとめ、考察した。

【結論】

スローフード・地産地消等といった運動は社会的な要求と呼応するように、ここ数年で世界的に広まり、日本においても各地にスローフード協会の支部が現在32支部立ち上がっている。「消え行く食素材を守る」、「質の高い小生産を守る」、「子供を含めた消費者への食育」という3つの活動方針は、NPOといった非営利活動が中心であり、世界共通の課題であり、大量生産型社会における反省と新しい生活感性を育てることにつながっていくだろう。

【参考文献】

「農が変える食ビジネス」
「スローフードバイブル」
「日本のスローフード」
「食の安全と健康意識調査集 2003」編集・発行 生活情報センター
ほか

【参考URL】

<http://www.jrt.co.jp/tv/ohayo/1999-2000/junk-food/>
<http://www.mindresort.net/mt/slowlog/archives/2005/02/aieeeeaooeeee.php>
<http://www.nt-slowfood.org/about/origin.html>
http://www.giac.or.jp/kenkyu/h15_6_5.pdf <http://www.cafeglobe.com/NEWS/dailynews/dn20000424-04.html>
ほか